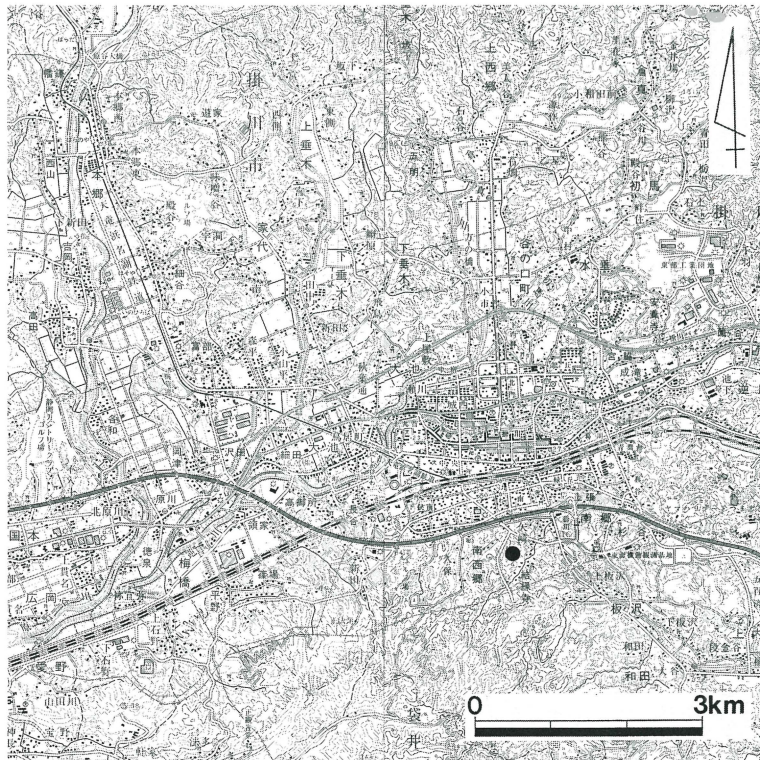


# 新田遺跡

仮称掛川バードパーク「花鳥園」建設に先立つ埋蔵文化財調査報告書



2001.3

掛川市教育委員会

文化財係



## 例 言

1. 本書は、静岡県掛川市南西郷字新田1538-1外に所在する新田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、観光植物園敷地造成に先立ち有限会社掛川花鳥園からの委託を受け、掛川市教育委員会が実施した。確認調査の費用は、1/2を国、1/4を県の補助金を受け実施した。本発掘調査の費用は、(有)掛川花鳥園が負担した。
3. 確認調査、本発掘調査にかかわる期間は以下の通りである。

確認調査	平成12年2月3日～3月17日
本発掘調査	平成12年4月10日～5月15日
整理作業	平成12年5月16日～平成13年3月23日
4. 確認調査、本発掘調査、本書の執筆、編集は、掛川市教育委員会の井村広巳が行った。
5. 本書に係わる発掘調査の記録及び出土遺物は、掛川市教育委員会が保管している。

## 凡 例

1. 挿図における方位は、真北を表す。
2. 挿図中の標高は海拔を示す。
3. 本書で使用している記号の名称は次のとおりである。

SB：堅穴住居跡	SD：溝	SF：土壌
----------	------	-------

## 目 次

- I 調査に至る経緯
- II 遺跡をめぐる環境
- III 調査の内容
- IV おわりに

## 挿 図 目 次

- 第1図 新田遺跡周辺遺跡分布図
- 第2図 トレンチ配置図
- 第3図 遺構全体図
- 第4図 SB01実測図及び出土遺物実測図
- 第5図 SF01、02実測図及び出土遺物実測図

## 写真図版目次

- 図版I 新田遺跡遠景（北から）  
調査区完掘（垂直）
- 図版II SB01完掘（東から）  
SF02完掘（南西から）
- 図版III SB01土器出土状態（南から）  
出土遺物

## I 調査に至る経緯

平成8年静岡県立掛川東高校の移転が決定し、その移転先である掛川市南西郷地内に遺跡が所在するかどうか静岡県教育委員会より照会を受けた。この周囲は周知の遺跡ではなかったが、掛川市教育委員会による踏査の結果、その可能性が認められたため、確認調査を行った。遺跡であることが確認され、平成11年(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所により発掘調査が実施された。調査では、弥生時代後期と古墳時代前期の堅穴住居跡と木棺直葬墳が確認された。

そして平成11年、その地点から2つ東の尾根周辺に観光植物園建設計画がもちあがった。その地点は周知の遺跡ではなかったが、掛川東高校移転先と同様な地形を示しており、踏査の結果、遺跡である可能性が認められたため、平成12年2月3日より確認調査を行うこととなった。確認調査は、土地利用にあげられた区域内の4つの尾根上に巾1mのトレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。(第2図参照) 確認調査では、D尾根以外の3つの尾根上で遺構が認められた。そして切り土され消滅する地点からも遺構が存在することが認められた。土地利用申請者である(有)掛川花鳥園と協議した結果、工事着手の期日がせまっているため早急に対応するという事で、平成12年4月10日より発掘調査を開始することとなった。

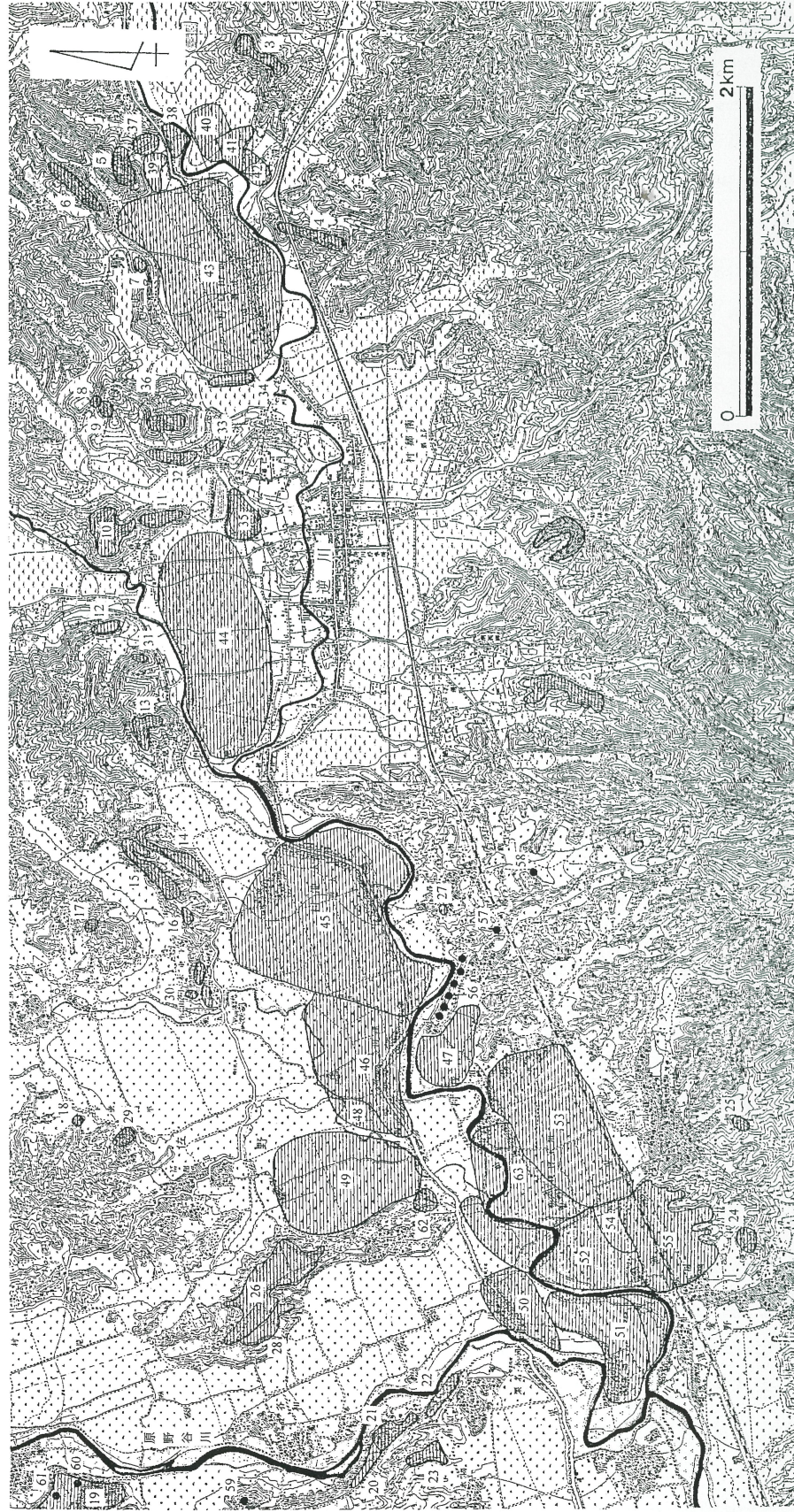
尚、この地点は新発見遺跡であり、小字より「新田遺跡」と新規登録した。

## II 遺跡をめぐる環境

掛川市は、市域の約2/3が山地や丘陵で占められ、原野谷川、逆川、倉真川、垂木川の流域にわずかな沖積地が広がる。掛川市の南部を東西に流れる逆川の左岸は、南から延びる小笠山丘陵の北端にあたり、小さな開析谷が北に向かって延びている。これは新第三紀鮮新世に堆積された掛川層群の一つである塊状シルト岩(土方泥層)がもろく浸食されやすい地質であるため、各所に複雑な地形を造りだしている。枝状に広がるやせ尾根は、平坦部が3～15mと狭く、比高差は20～30mである。

このように沖積地の発達が少ない掛川市において逆川下流域の地域では、弥生時代から古墳時代にかけて人々の生活はどのようなものであったか概観していく。まず、最初に確認できるのは、逆川と原野谷川の合流点付近の沖積地に広がる原川遺跡と、逆川左岸の丘陵上に位置する若作遺跡である。ともに弥生時代中期前半の遺構を検出している。弥生時代中期中葉から後葉になると遺跡は増加し、山下、宇佐八幡境内、岡津原Ⅲ、六ノ坪Ⅳ、不動ヶ谷、原、大ヶ谷遺跡で方形周溝墓が、大六山遺跡で堅穴住居跡が検出されている。これらの調査で確認された遺構は、すべて段丘状や丘陵に位置している。原川遺跡以外の沖積地で弥生時代中期と認められるのは、原川遺跡の東に広がる曾我後遺跡と神子地遺跡である。沖積地の発掘調査が進んでいないため、詳細は不明であるものの集落は、主に沖積地に存在したと推測される。後期になると、集落は増加していく。逆川右岸沿いの丘陵先端部には、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落が数多くみうけられる。発掘調査で確認されただけでも、峯山、深谷、大多郎、内籠、原新田、天王山、原、源ヶ谷、六ノ坪、六ノ坪Ⅳ、小山平、蔵人、女高Ⅰ、金鑄原遺跡がある。これらの中には、何軒かが切り合い関係を持ち、数時期にわたり集落を営んでいた例も認められる。一方、逆川左岸は右岸に比べ、小笠山丘陵が間近まで迫り、丘陵は浸食のためやせ尾根となり、遺跡の存在は希薄である。その中で丘陵のわずかな平坦部や緩斜面を利用し集落を形成している例が、踊原、大六山、居村、若作遺跡である。これらは、引き続き古墳時代前期まで集落を継続させている。古墳時代前期になると新たに赤渕、蔵人Ⅱ遺跡で少数の堅穴住居跡が確認されている。古墳時代前期末には、前方後円墳の前坪3号墳の築造がみられ、中期には浅間神社3号墳、西池、金塚、行人塚、瓢塚と大型の古墳が逆川左岸、原野谷川右岸に築造されている。集落は確認されていないものの、この地域の首長の存在とそれを支えた共同体の存在を窺うことができる。





第1図 新田遺跡周辺遺跡分布図（明治23年に作成された地形図に加筆）

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	新田遺跡	10	原新田遺跡	19	女高I遺跡	28	岡津原IV遺跡	37	寺峯遺跡	46	細田遺跡	55	梅橋遺跡
2	菅蒲ヶ谷遺跡	11	天王山遺跡	20	金鑄原遺跡	29	森平遺跡	38	下川原遺跡	47	前坪遺跡	56	前坪3号墳
3	大六山遺跡	12	不動ヶ谷遺跡	21	山下遺跡	30	小山平遺跡	39	古明遺跡	48	沢田遺跡	57	浅間神社3号墳
4	峯山遺跡	13	六ノ坪遺跡	22	宇佐八幡境内遺跡	31	岩谷遺跡	40	神子地遺跡	49	黒田遺跡	58	西池古墳
5	深谷遺跡	14	源ヶ谷遺跡	23	権現山遺跡	32	御所原遺跡	41	天神遺跡	50	原川遺跡	59	金塚古墳
6	山郷山遺跡	15	六ノ坪IV遺跡	24	若作遺跡	33	三条久保遺跡	42	中西遺跡	51	梅橋北遺跡	60	瓢塚古墳
7	大多郎遺跡	16	蔵人II遺跡	25	居村遺跡	34	堀ノ内遺跡	43	山口遺跡	52	篠場遺跡	61	行人塚古墳
8	内籠遺跡	17	赤湖遺跡	26	岡津原III遺跡	35	子角山遺跡	44	下西郷遺跡	53	領家遺跡	62	向山遺跡
9		18		27	東ノ谷遺跡	36	大ヶ谷遺跡	45	大池遺跡	54	平野遺跡	63	菅我後遺跡

### Ⅲ 調査の内容

確認調査（第2図参照）

A 尾根 地表面から10~20cm下げると、もろい泥岩の基盤層に達する。溝1条を検出した。巾7.6m、深さは検出面より0.4mを測る。覆土は黒褐色土である。遺物は出土しなかった。

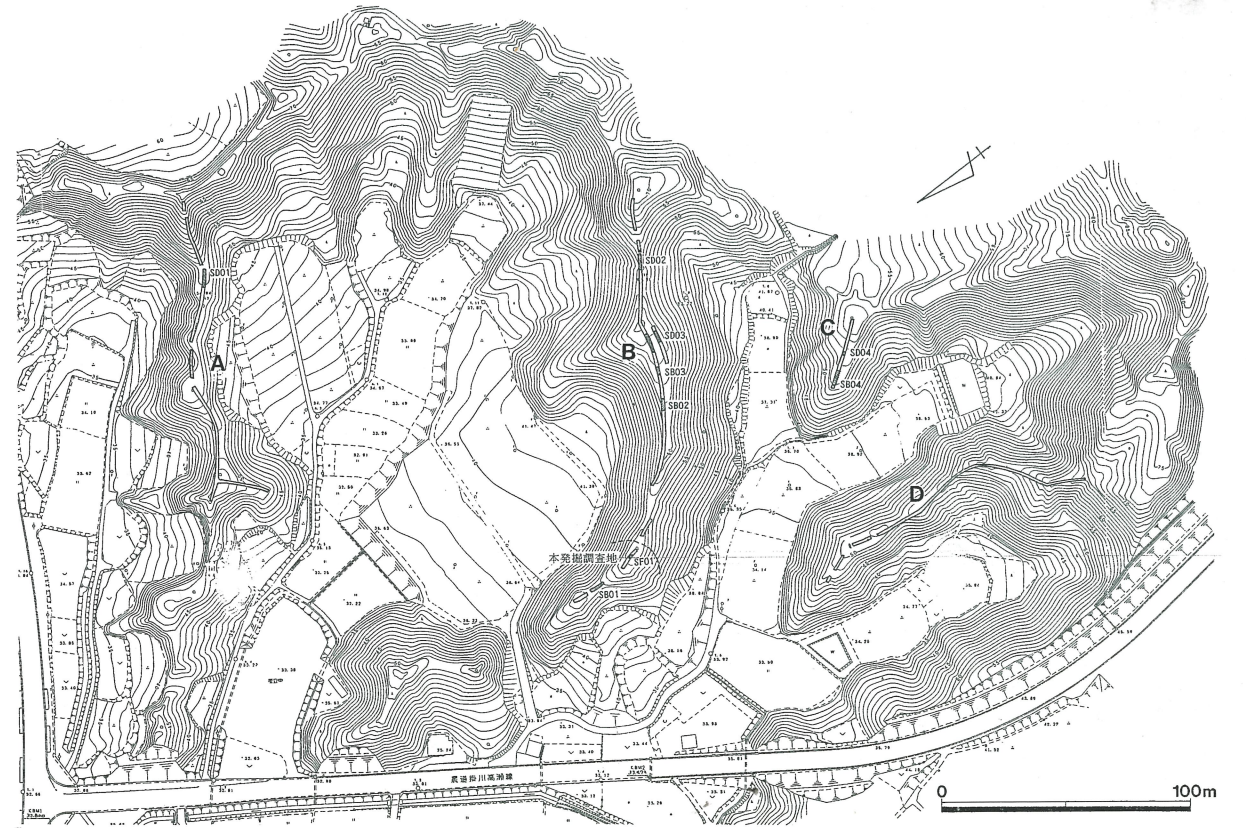
B 尾根 溝2条、竪穴住居跡3軒、土壙2を検出した。

SD02 鞍部の小さな平坦部に位置する。巾7mを測る。覆土は暗褐色土であった。出土土器は、第4図の13と14である。13は甕の口縁部である。口唇部にはヘラ状工具による刺突文が施されている。14は台付甕の台部である。ススが付着していた。確認調査のため、大型の遺物は取り上げずそのままにしたが、その中に折り返し口縁の壺が存在した。なお溝としたが、竪穴住居跡の可能性も考えられる。

SD03 尾根頂部からゆるやかに傾斜する部分に位置する。巾8.4m、深さが東で1.5m、西で1mを測る。掘り方断面の形状がV字形を呈する。南側のサブトレンチで確認した結果、巾5.4m、深さ0.35mと急激に浅くなることが認められた。覆土は茶褐色土で、かなり固くしまっていた。検出面から0.4m下で土器の小片が出土している。

SB02 立木が存在したため一部分のみを調査した。巾推定7mを測る。覆土は褐色土で、検出面から0.4mで焼土を確認した。また、ほぼ完形の台付甕が出土し、その周囲には炭化物が堆積していた。台付甕はそのまま埋め戻した。その他の出土遺物は、第4図の6~10である。6と7は同一個体の壺である。8は複合口縁の壺である。口縁部には棒状貼付文を付し、口唇部には縄文を施している。

SB03 立木が存在したため一部分のみ調査した。巾推定6mを測る。5mm大の炭化物が



第2図 トレンチ配置図



焼土確認面で認められた。覆土は黄白色土である。遺物の出土はない。

C尾根 SD04 巾1m、深さ0.1mを測る。土器の小片が出土した。

SB04 丘陵先端部に位置する。巾6mを測る。覆土は茶褐色土で、検出面から0.5mで2m四方に炭化物が広がっていた。土器の小片が出土している。

D尾根 表土から7~10cmでもろい塊状の基盤層に達する。所々で基盤層が露出しており、堆積は非常に浅い。

本調査 (第3、4、5図参照)

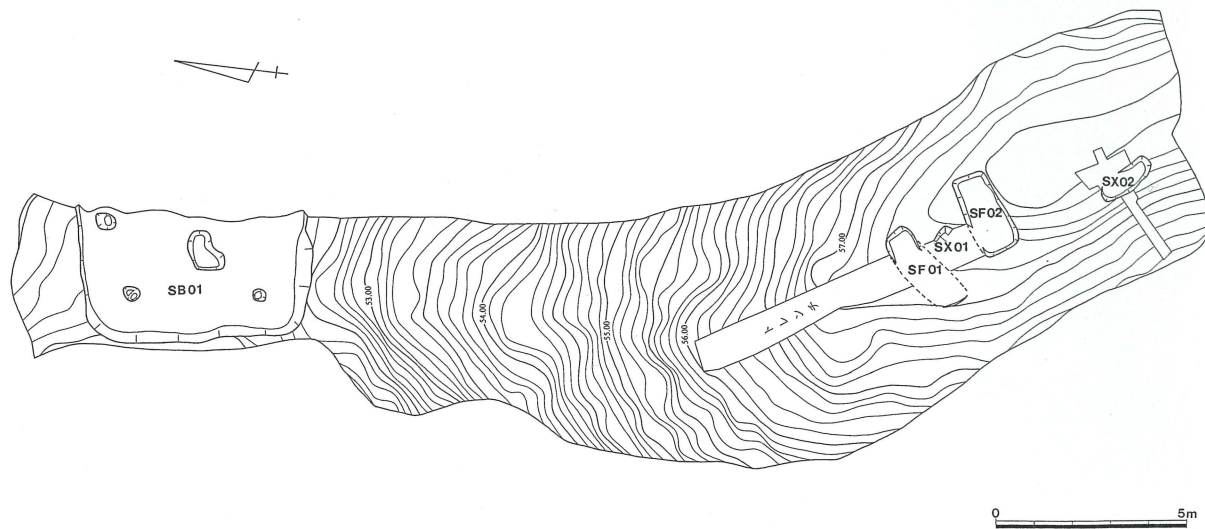
SB01 丘陵の鞍部に位置する。東側は茶畑造成の際に土取りが行われており、消失している。規模は南北6m、形状は隅丸方形と推定される。ほぼ中央の浅い掘りこみに焼土が確認された。上面には2~3cm大の焼土ブロックが点在する。小穴は3つ検出したが、P3はその位置から主柱穴にはならない。1~4は北西隅の床面から出土した。1は大型の甕である。口唇部は丸く仕上げ、口縁部は横ナデを施している。口縁部を下にして出土した。体部下半は出土していない。2と3は台付甕の台部である。3は脚が短くなり、ハの字に開く。4は器台である。坏部は短く開き、口唇部には面をもつ。脚部は外反し、3方の透かしを持つ。5は、器台または高坏の脚部である。これらの出土遺物からSB01は、古墳時代前期前半に位置づけられる。

SF01 尾根の頂部に位置する。確認調査のトレンチで中央を分断してしまった。南側は斜面になっており、既に流出し掘り方の一部分しか検出できなかった。規模は推定で長軸2.5m、短軸0.8m、深さ0.29mである。出土遺物は11の高坏脚部である。坏部と脚部の接合部分に櫛押圧横線文を数段施している。脚端部は強く屈折している。弥生時代後期菊川様式古段階のものである。

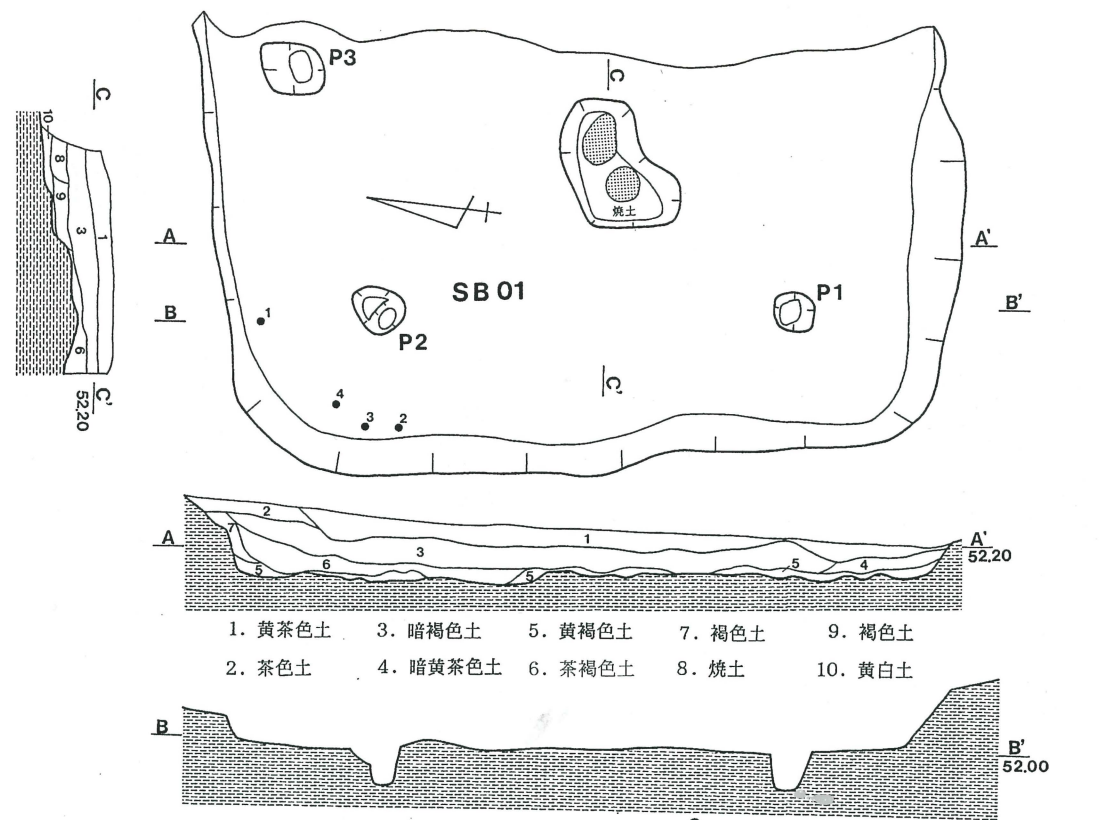
SF02 SF01から1.5m南に離れた尾根頂部に位置する。規模は長軸2.2m、短軸1m、深さ0.3mである。形状は長方形である。北東部分で小型の甕片が出土したが、風化が激しく接合不可能であった。12は台付甕の台部であるが、上記のものと同一体であるか判断できない。

SX01 一部分のみ検出した。確認調査では遺構と認識できず、掘削してしまった。トレンチ南側では、SX01に対応する遺構は確認できなかった。遺物の出土はない。

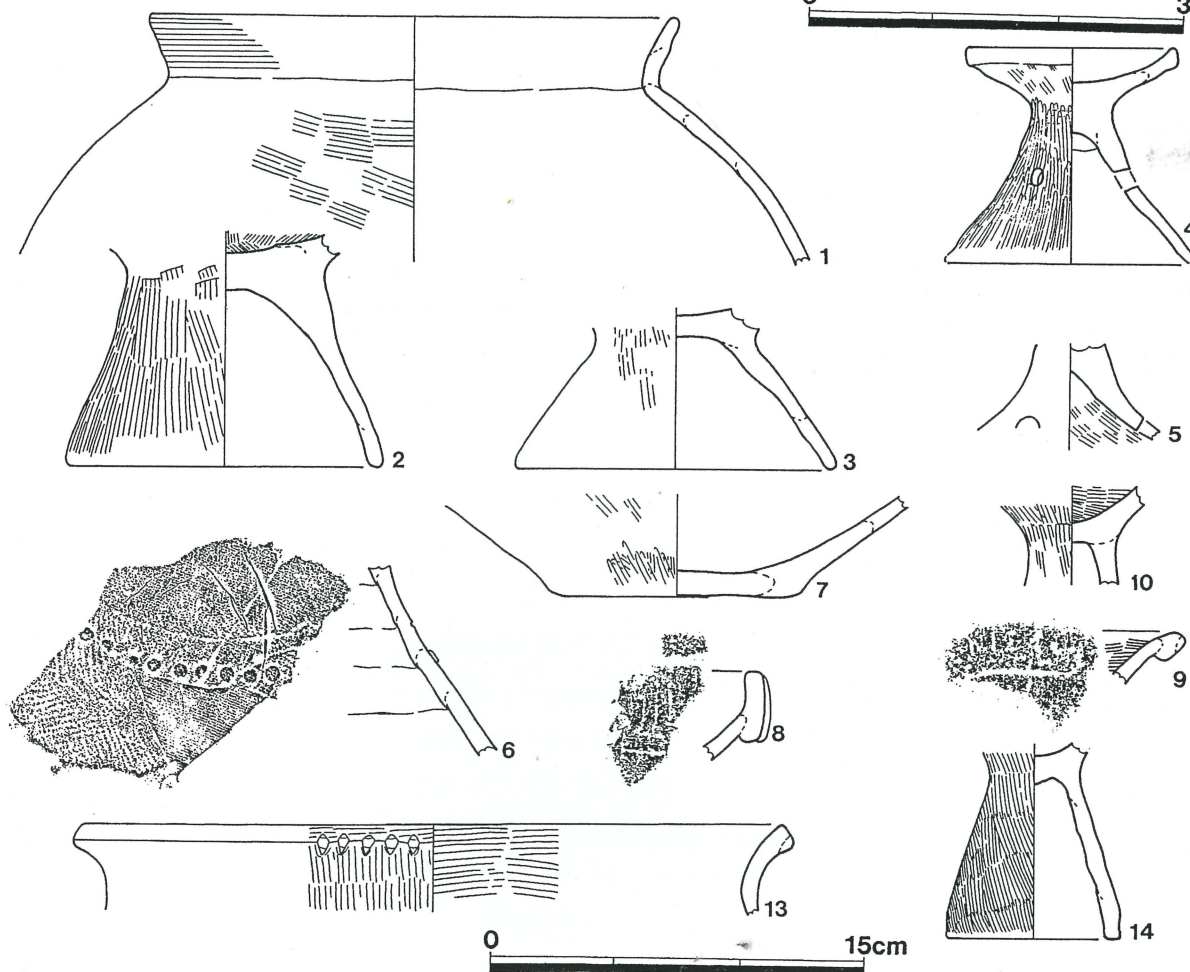
SX02 尾根頂部に位置する。規模は長軸1.55m、短軸0.6m、深さ0.15mである。形状は隅丸長方形である。遺物の出土はない。



第3図 遺構全体図

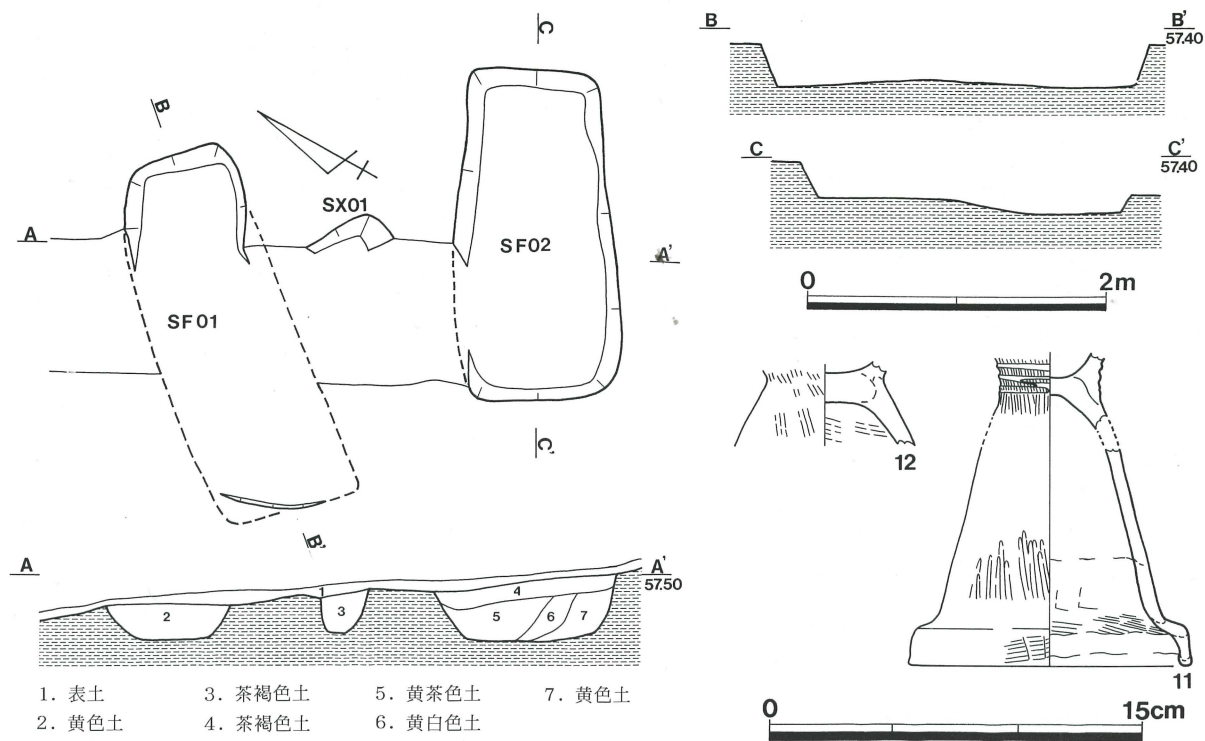


1. 黄茶色土 3. 暗褐色土 5. 黄褐色土 7. 褐色土 9. 褐色土  
2. 茶色土 4. 暗黄茶色土 6. 茶褐色土 8. 焼土 10. 黄白色土



第4図 SB01実測図及び出土遺物実測図





第5図 SF01、02実測図及び出土遺物実測図

#### IV おわりに

新田遺跡は限られた範囲での調査であったため、集落としての動向を詳細に知ることができないが、菖蒲ヶ谷遺跡（掛川東高校移転先）と同様に弥生時代後期から古墳時代前期にかけて狭い尾根上を利用していた集落の一つであるといえる。このような集落は、同じ逆川左岸の居村、若作遺跡に認められる。居村遺跡では、弥生時代中期後葉から竪穴住居跡が確認され、古墳時代前期まで続く。しかし、それは同時期に1軒又は2軒と極少数で、途絶えていた時期もあったようだ。恒常的な集落というよりも一時的に使用していた集落と推定される。若作遺跡でも弥生時代中期後半から竪穴住居があったと推定され、古墳時代前期まで継続している。時期によって尾根上を移動し、弥生時代と古墳時代の住居跡が重なることはない。最盛期は古墳時代前期前半で、居村遺跡とは異なり小規模ではあるが恒常的な集落として機能していたことが窺える。菖蒲ヶ谷遺跡は、若作遺跡と同じ様相を示すといってよいだろう。尾根上を移動し、集落を形成している。

一方、逆川石岸に位置する蔵人Ⅱ、赤淵遺跡では古墳時代前期の竪穴住居跡が1軒ずつ確認されている。遺跡の継続時期は異なるものの、この両遺跡は若作、菖蒲ヶ谷遺跡と遺跡の性格は異なり居村遺跡の在り方と同じであったと推測される。若作、菖蒲ヶ谷遺跡は大規模ではないものの、日常的な集落であり、居村、蔵人Ⅱ、赤淵遺跡は一時的に使用された集落であったと考えられる。新田遺跡の調査は限られたものであるが、確認調査の遺構の検出状況などから若作、菖蒲ヶ谷遺跡と同様に、立地条件が良いとはいえない土地に、集落を形成していたのである。

最後に新田遺跡の発掘調査に関し御理解頂き、御協力頂いた(有)掛川花鳥園に深く感謝の意を表したい。また、菖蒲ヶ谷遺跡については(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所の蔵本俊明氏にご教示いただいた。

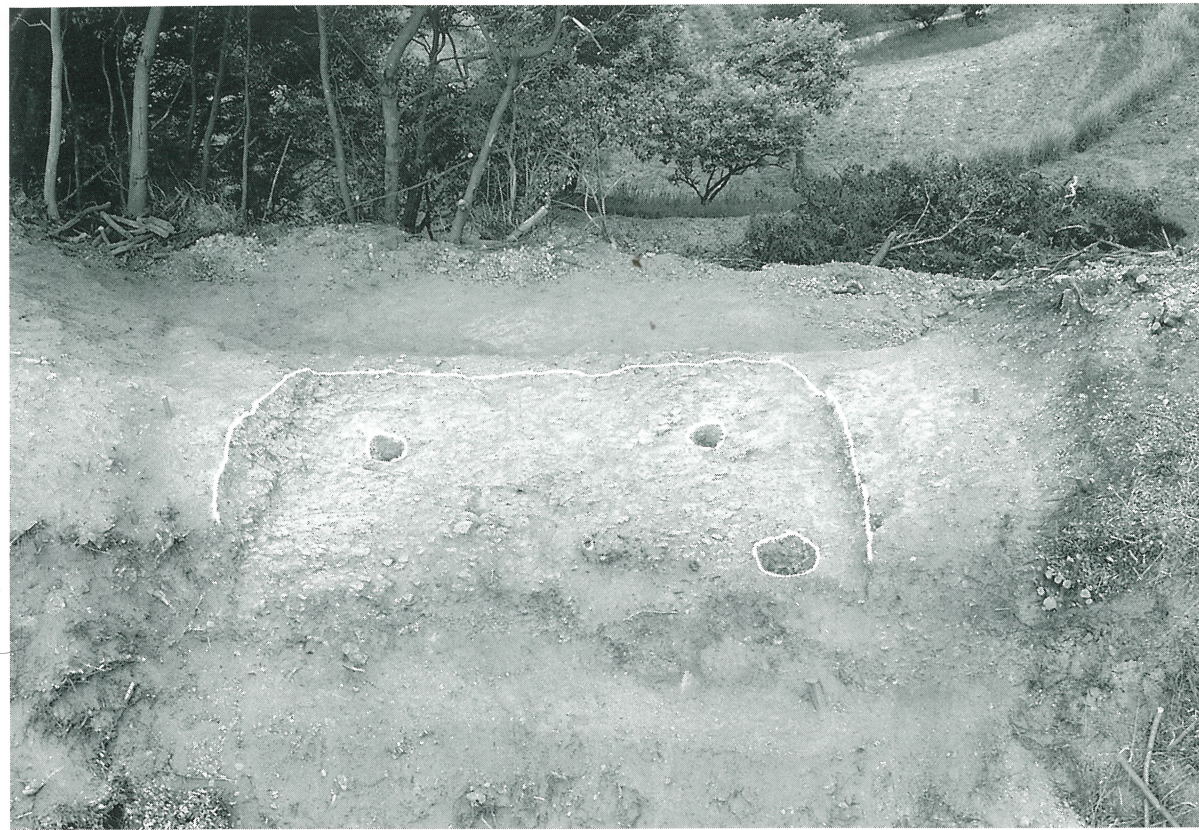


新田遺跡遠景（北から）



調査区完掘（垂直）





SB01完掘（東から）



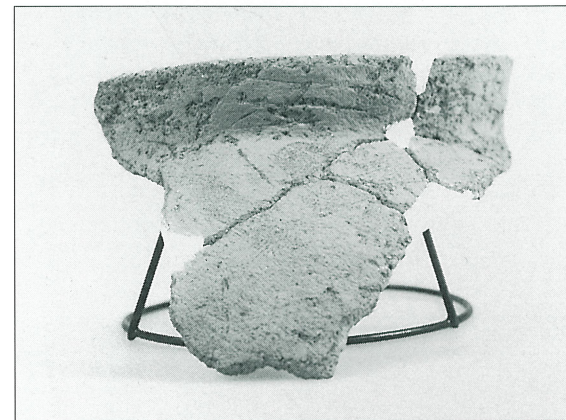
SF02（南西から）

(8)

1-1 7a5 k



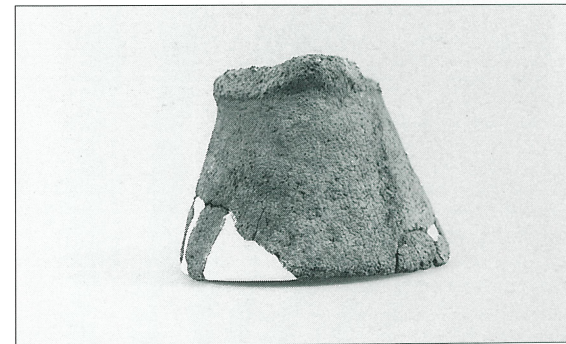
SB01土器出土状態（南から）



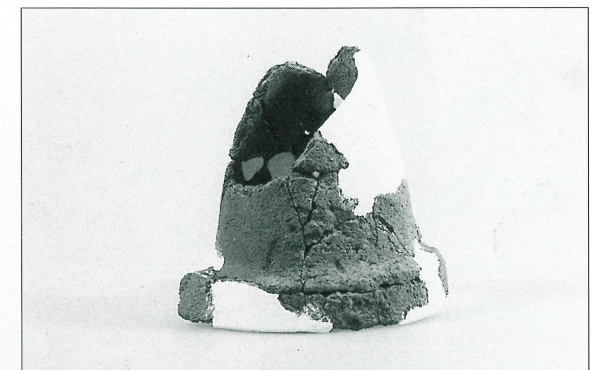
1



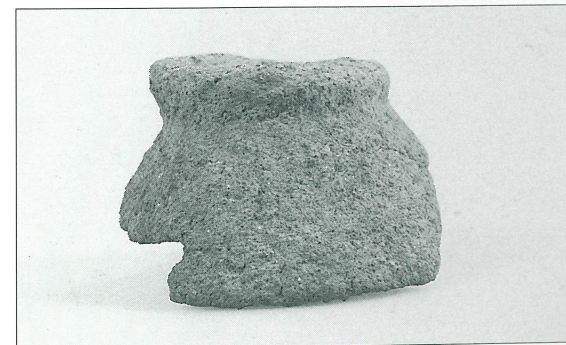
4



2



11



3



14

(9)



# 報告書抄録

ふりがな	しんでんいせき							
書名	新田遺跡							
副書名	仮称掛川パードパーク「花鳥園」建設に先立つ埋蔵文化財調査報告書							
編集者名	井村広巳							
編集機関	掛川市教育委員会							
所在地	〒436-8650 静岡県掛川市長谷701番地の1 TEL (0537)21-1158							
発行年月日	2001年3月23日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しんでんいせき 新田遺跡	静岡県掛川市 みなみさいごうあざしんでん 南西郷字新田	22213	523	34度 45分 27秒	138度 01分 03秒	20000203 ～ 20000515	140㎡	観光 開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
新田遺跡	墓	弥生時代	土壙墓 2					
	古墳	古墳時代	竪穴住居 1					

## 新田遺跡

2001. 3

編集発行 掛川市教育委員会  
掛川市長谷701-1  
TEL (0537) 21-1158

印刷 株式会社 彩光堂  
掛川市宮脇248-1  
TEL (0537) 24-0013